

防衛大学校本科第30期学生及び理工学研究科第21期学生 入校式における学校長式辞（昭和57年4月5日）

本日、防衛大学校本科第30期学生515名及び理工学研究科第21期学生59名の入校式を挙行いたしますに当たり、堀之内防衛政務次官^{注(1)}、佐々防衛庁人事教育局長^{注(2)}、石崎教育担当参事官^{注(3)}、片尾統合幕僚会議議長^{注(4)}代理、松井航空幕僚副長^{注(5)}、吉田海上幕僚副長^{注(6)}、中村陸上幕僚副長^{注(7)}をはじめとする各位、更に地元横須賀市から小佐野商工会議所会頭^{注(8)}等多数の来賓の御臨席をいただき、防衛大学校として真に光栄に存じ、ここに職員並びに学生一同に代わり厚くお礼を申し上げます。

更に、全国各地からはるばるおいでくださいました御父兄の皆様方に対しましても、御子弟の栄ある防大入校を衷心よりお祝い申し上げます次第であります。

本科入学の新入生諸君、諸君は数多くの受験者の中から、見事に難関を突破されました。ここに入校を心からお祝いたしますとともに、在校の全職員、全学生とともに、諸手を挙げて歓迎するものであります。

さて我が防衛大学校の教育目的は、防衛庁設置法第33条に明示されてありますとおり、「幹部自衛官となるべきものを教育訓練する」ことにあります。すなわち、我が国における陸・海・空各自衛隊の幹部を養



第4代学校長 土田 國保

注(1) 堀之内久男

注(2) 佐々淳行

注(3) 石崎 昭

注(4) 矢田次夫

注(5) 松井泰夫

注(6) 吉田 學

注(7) 中村守雄

注(8) 小佐野皆吉

成するために存在する大学校であります。ここに諸君の入校に当たり、学校長として次の三点を特に諸君に要望いたします。

まず第一に、諸君は、今後の自己の人間形成の目標を、「真^{まこと}の紳士」にして「真^{まこと}の武人」たるにはいかにあるべきかということに置いていただきたい。本校は、他の一般大学と全く趣を異にし、全学生の規律正しい団体生活、団体行動そして団体訓練を基幹となすものであります。特に第1学年にあつては、まず形から入ってゆく躰教育と基本訓練から始められるのであります。しかして、それが将来多くの部下の長たるべき幹部としての資質を錬成する第一歩なのでありますから、諸君はどうか素直な気持で、この団体生活の中に積極的に飛び込み、その雰囲気になじみ、指導教官や上級生の指導を体して、習^{ならいしよう}性となるようまず躰を身につけられたいのであります。

とはいえ4年間の学生生活が、他律的、強制的で、各自の自主性、個性を失なわしめるものであつては絶対になりません。最初は他律的な学生生活も、第2学年、第3学年と進むにつれて、次第に自主自律的環境に変化し、その間に己れが個性を磨いでゆくことが必要とされるのであります。幹部自衛官たり、指揮官たるに最も肝要とされるのは、自製の心と自主積極の精神なのであります。諸君は、追い追い指導される側から指導する側に、下級生に対し率先垂範を要求される立場に立つのであります。どうか諸君一人一人が4年間の小原台生活を通じ、見事な人間的成長を遂げ、個性豊かにして随所にリーダーシップを発揮できる若人として、突き抜けて行かれんことを切に期待するものであります。

第二に諸君は、学生として、学問の研鑽に本腰を入れていただきたいということでありませう。

現在、世界各国の士官教育は、一般大学の学生と同等乃至はそれ以上の知的水準の達成をその目標としております。我が防衛大学校におきましても、文部省の大学設置基準に準拠した理工学系、人文社会学系教育に加えて、本校独特の防衛学教育を主たる学業の内容としているのであります。防衛大学校規則第5条に掲げられている「広い視野を開き、科学的思考力を養う」とは、正にこのことを指すのであります。今や、我が国自衛隊の幹部たるには、高度の学識、学力の保持者でなければ通用しない時代に来ているのです。諸君のこれからの勉学が、今後の自衛隊幹部としての生涯をかけて本物として育つよう祈つてやみません。優れた教授体制を擁する本校において、受身の姿勢で、中途半端な気持で日常を送るには、この4年間はあまりにも貴重すぎるのであります。今

後、各教官方の御指導に従い、真剣に学術の研鑽に努められ、将来開花すべきポテンシャルを培われるよう切望するものであります。

第三に諸君は、必ずどこかの校友会クラブ活動に参加して、心身を大いに鍛え、また豊かな情操を養っていただきたいのであります。

卒業生は今や1万2千人になんなんとし、現役で幹部自衛官として活躍している卒業生は、第1期生より数えて9千余人の多きにわたっておりますが、これらOBの諸君が防大時代の懐しい思い出を語る時、異口同音に飛び出すのは、クラブ活動の思い出なのであります。クラブ活動こそ学生生活の大きな要の一つであり、20歳前後の青年期は心身の鍛練に絶好の機会であることと相まって、省みて一生忘れ得ない楽しい思い出ともなるのであります。そして将来、幹部自衛官として陣頭に立つ時、いかなる状況の下にあっても最後まで戦い、粘り抜くことのできる力の源泉こそ、ここで養われるものと断言して憚りません。生涯を通じての良き師、良き先輩後輩、良き同期生の絆も、この小原台における汗と涙から生れ出づるものと信ずるのであります。

次に、理工学研究科に入学された諸君に申し上げます。諸君はこのたび特に選ばれて、今後2年間、本校の研究科において一般大学の修士課程相当の高度な科学技術の修得に専念せられる機会を得られましたことを、心からお慶び申し上げます。

今日まで諸君の多くは、学窓を離れて以来、第一線の自衛隊各種部隊、艦船等にあつて、各般の職責を遂行され、研学の道より遠ざかることを余儀なくされておられたかと存じます。研究科生活において、私は必ずや諸君が、過去において履修された専攻分野を踏まえ、より高い水準の研究を目指し、大きな成果を得られ、大いなる自信を克ちとられることを信じてやみません。我が国の防衛科学技術の向上は、正面装備の充実と相まって、将来の大きな課題となりつつあります今日、諸君の努力精進を心から祈念してやまないものであります。

桜花爛漫として野山に匂い、春風颯湯として^{おもて}面に^{こち}快良き春4月、青き海原を眼下におさめるこの小原台上にあつて、祖国防衛の尊き任務達成のため、第一歩を踏み出さんとする諸君の健闘を心から祈りつつ、式辞を終るものであります。